



校長室から

～ふるさとの好循環～

校長 市丸 佐緒里

平戸高校に赴任して4ヶ月、人とのふれあいや山・海の自然に癒され、歴史・文化を学び、日々、平戸の魅力を感じています。特に、地域の方々のふるさとに対する思いを聴いたり、地域の活性化や課題を解決するために、ボランティア等で活動する方々の志を聴くなかで、生徒の皆さんにそれらの思いや志が共有されたり、受け継がれていく『ふるさとの好循環』が生まれてほしいと思っています。そこで紹介したいのが「平戸あこがれ物語」第1章「心にのこる人物伝」と今年発行された第2章「大切に遺していきたい平戸の宝もの」です*（写真1）。平戸市内の小学校の先生方が、次代を担う皆さんに平戸を支えた人々や、生活や心の支えになってきたものなどを知ってほしいという思いから編集された冊子です。本校や地域の図書館にも配布されています。ぜひ一度、手に取って平戸の再発見やふるさと探究のきっかけにしてみませんか？



写真1

【先輩からのバトン!】創立50周年企画 ～第4弾～

今回は第20回卒業生津田恵美子さん（十八親和銀行吉井支店 支店長）にお聞きしました。

平高での高校時代は、学習も部活も学校行事も充実して楽しかったです(^_^)との第一声でインタビューが始まりました。放送部に所属し、部員と一緒に昼食を食べながら、お昼の校内放送をする時や、体育祭の応援合戦で友人と一致団結して1つのことを創り上げた時が、今思えばかけがえのない大切な時間だったと語られました。高校の時から将来は平戸で働くことを目標に、担任の池田先生（数学）によく相談しながら大学進学を目指し、熱心に英語を学ばれたそうです。見事、希望大学に合格、十八親和銀行（当時は親和銀行）平戸支店に配属され、ふるさとでの就職が叶いましたが、入行2か月を過ぎた頃に挫折を味わい、仕事に未来を見出せない時期があったそうです。しかし、「こんな自分ではどんな仕事でも一人前になれない」と奮起され、30歳の時には当時の上司から『仕事に前向きでいつも元氣、嫌な顔をしない』という姿勢が認められ、本店への異動、新部署（営業推進部）でチャレンジする機会を得られました。今、支店長として心がけていることは『縁を大切に・人を大切に』。終始、穏やかで丁寧な対応、笑顔が絶えない会話の中に、仕事への誇りと芯の強さ、そしてすべての人を包み込む本当の優しさが感じられる津田支店長さんでした。

ご協力ありがとうございました。

【後輩へのエール】

高校時代は、人生の中で一番濃い大事な時だと思います。人との巡り合いを大切に、何事も失敗を恐れず、自分の可能性を信じてチャレンジしてほしいです。平戸は地理的に不利な面もありますが、情報を吸収し、うまく活用しながら道を拓いてください。



十八親和銀行マスコットキャラクター
ユーモとともに

平戸市合同企業説明会

7月5日(金)に平戸市役所主催で、1,2年生対象に本校で平戸市合同企業説明会が行われました。14か所の事業所に来ていただき、生徒たちは真剣に話を聞いていました。自分の進路を考える良い機会になりました。



全国高等学校野球選手権 長崎大会

7月16日(火)、雨のため3日間順延となりましたが、全国高等学校野球選手権長崎大会1回戦が長崎県営野球場で行われました。3校連合チーム(平戸、佐世保商業、佐世保西)は、上五島高校と対戦し、0対10(5回コールド)で敗退しました。1年の烏山恭輔さんは、平戸高校野球部の唯一の部員として、4月から活動してきました。7番ライトで出場しました。結果は残念でしたが、次の大会に期待しています。



ケイトリン先生の離任式

7月11日(木)にALTのケイトリン先生の離任式が行われました。1年間という短い期間ではありましたが、生徒たちのために、いつも楽しい授業をしてくださいました。



職 場 体 験

7月8日(月)~10日(水)、平戸市内の16事業所にご協力いただき、2年生の職場体験を実施しました。働くことの意義や希望する職種の専門性など、学校では得られない多くのことを学んだようです。中には、働くことの大変さを身に染みて感じた生徒もいました。全員が自らの進路を考える有意義な体験でした。

【生徒感想文抜粋】

「決まったことだけでなく、先を考えながら動かなくてはいけない大変さを知った。」



8・9月の主な行事予定

- 8月
- 9日(金) 平和学習
- 9月
- 2日(月) 始業式・到達度テスト
- 12日(木) 生徒会執行部選挙
- 26日(木) ジョブガイダンス(1年)
- 27日(金) 体育祭関係団結式
- 30日(月) 体育祭特別時間割

